

東京港第9次改訂港湾計画に向けた 長期構想検討部会（第6回）

環境 検討資料

目次

内容	頁
【検討の流れ】	
環境 検討の方向性（第1回検討部会 提示資料）	3
環境の検討フロー	4
【豊かな海域環境・生物生息環境】	
東京港における磯浜・干潟・浅場の整備	5
海上公園整備による自然環境の創出	6
葛西海浜公園の干潟の保全・活用	7
都民等の多様な主体と連携した公園づくり（海の森公園）	8
環境学習等による海上公園の利活用推進	9
ブルーカーボンの活用	10
東京港の水質改善	11

内容	頁
【循環型社会】	
新海面処分場の整備	12
【「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）】	
「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）（1）	13
「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）（2）	14
【環境 取りまとめの方向性（素案）】	
環境 取りまとめの方向性（素案）	15

東京港の役割

- 広大な水辺空間（運河、海域）と海上公園が存在
- 多様な生物の生息環境となっている
- 廃棄物処分場等により、都市機能を支えている

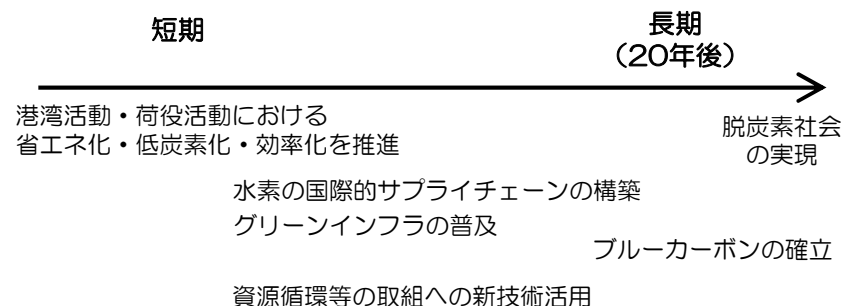
現状と課題

- 海上公園ビジョンに基づき、海上公園の再整備等を推進
- 葛西海浜公園がラムサール条約湿地登録（平成30年3月）
- 海上公園が屋外レクリエーションの場として利用されている
- 海上公園が様々な生物多様性保全に貢献している（浅場・干潟造成、緩傾斜護岸）
- 汚泥しゅんせつや覆砂等、水質改善に関する様々な取組を実施
- 建設発生土の有効活用、静脈物流による資源循環の取組、廃棄物処分場の整備など、都市問題に対応している
- 旧来型の荷役機械の使用による、温室効果ガスの排出

情勢の変化

- 地球温暖化につながる温室効果ガスの排出をゼロにする、「脱炭素社会」の実現に向けた取組が求められている
- 海運業界において、LNGや水素等の代替燃料への転換など、温室効果ガス排出削減に向けた動きが加速している
- SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組が進められている（持続可能なエネルギー、生態系の保護・回復・損失の阻止等）

社会における技術革新の進展イメージ



東京港の目指すべき将来像（案）

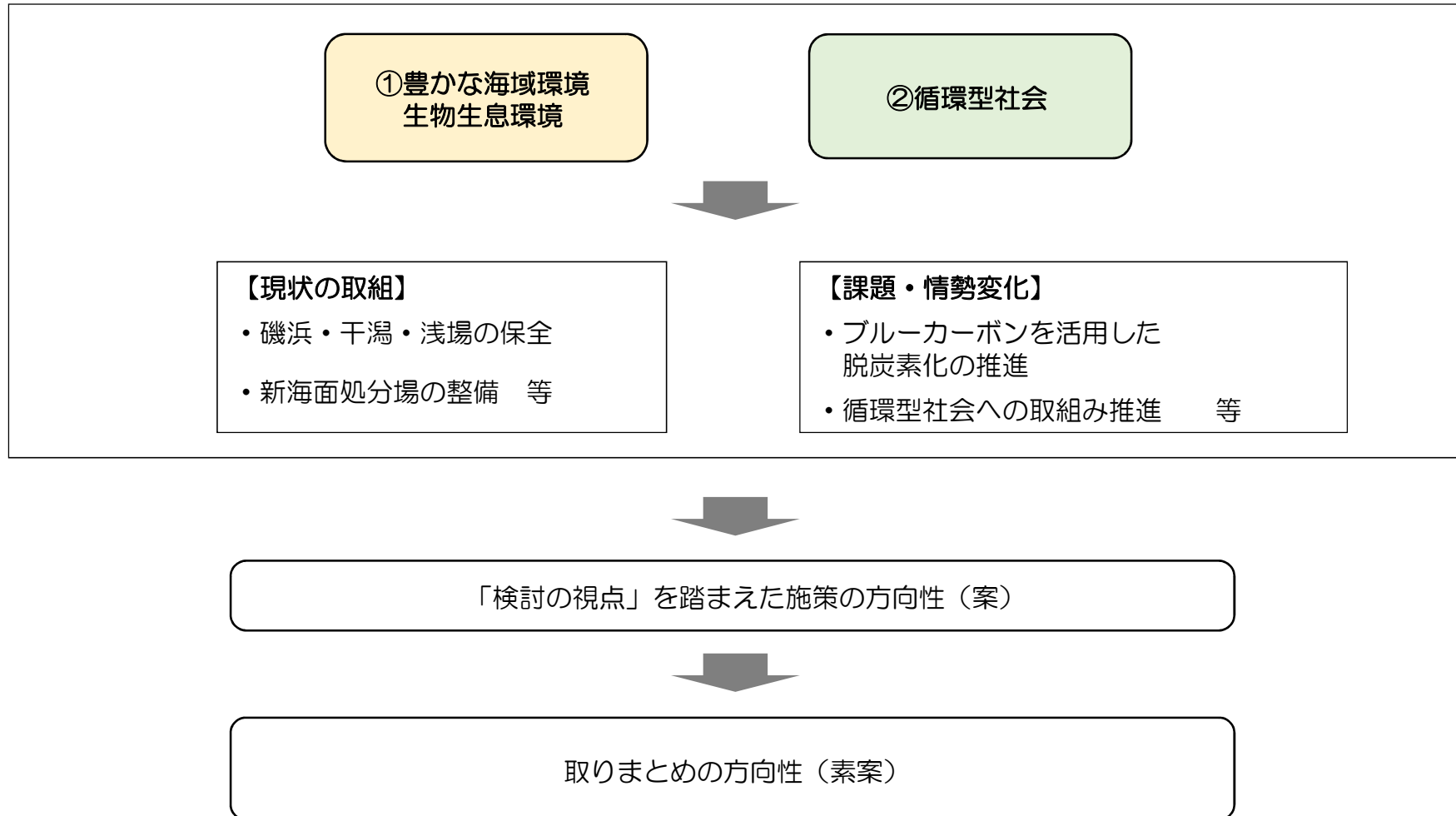
- 水と緑のネットワークの拡充、海域環境の保全・改善により、良好な港湾空間が創出されている
- 脱炭素社会の循環型社会の実現に、港湾エリアが大きく貢献している（再掲）

検討の視点（案）

- 都民に親しまれる臨海部の創造に向けて、水と緑のネットワークの拡充など、良好な空間形成に向けて、どのような取組が必要か
- 豊かな海域環境の実現に向けて、どのような取組が必要か
- 脱炭素社会の実現に向けて、ターミナルなどの港湾物流分野において、どのような取組が必要か
- 循環型社会への貢献や廃棄物処分場など、引き続き都市問題に対応していくためには、どのような取組が必要か

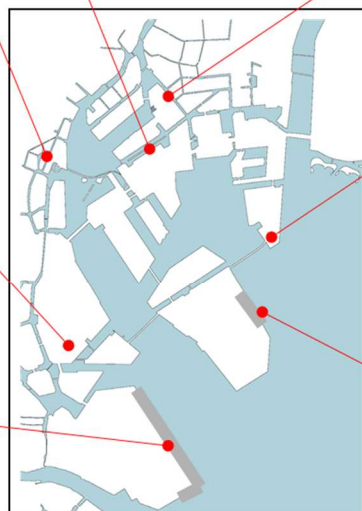
環境の検討フロー

- 良好な海辺空間の創出や脱炭素化に向けた、現状の取組、課題・情勢変化を踏まえて、今後の方向性を検討



【現状】

- 東京港では、磯浜・干潟・浅場を整備し、海が持つ本来の自然浄化機能・生態系を再生することで、生物多様性の保全や環境負荷の軽減に取り組んでいる



～多様な水生生物(新海面処分場東側)～



【現状】

- 海上公園の整備により、まとまりのある植林地や広大な干潟などの自然環境が創出され、公園の周辺には様々な野鳥等の生物が生息している
- 東京港野鳥公園や大井ふ頭中央海浜公園などの一部区域では、自然保護のため人の立入を制限



コアシサシ（東京港野鳥公園）



ホトケノザ（東京港野鳥公園）



トビハゼ（東京港野鳥公園）



アオスジアゲハ（海の森公園）



干潟（大井ふ頭中央海浜公園）

【現状】

- 葛西海浜公園の干潟は、特に水鳥の生息地として国際的にも重要な場であるとして、平成30年10月に東京都で初めてのラムサール条約湿地に登録された
- 都は、これを契機に、令和3年3月に「葛西海浜公園保全活用計画」をとりまとめ、自然環境の保全と更なる利活用を推進

◆自然環境の保全・文化の継承

【目指す姿①】

豊かな自然環境の保全



葛西海浜公園に飛来する水鳥



三枚洲干潟

【目指す姿②】

海辺の文化が保全され、発展する里海



里海文化の継承（海苔すき体験）



里海文化の継承（投網体験）

◆利活用・魅力の発信

【目指す姿③】

国内外から注目され人々で賑わう湿地



スポーツカイト



自然観察会

【現状】

- 環境への関心の高まり等から、地域住民や民間企業等が公園づくりに積極的に参加する例が増えている
- 海の森公園では、都民参加による苗木づくりや植栽のほか、民間事業者と連携して多彩なイベントを行い、協働による公園づくりを行っている
- これまでに50種24万本の苗木を植栽するとともに、植樹には都民約2万3千人、約500企業・団体等が参加



都内小学校との連携による苗木づくり



都民による植樹活動



民間事業者によるイベント①
(公園の木の実などを使った作品づくり)



民間事業者によるイベント②
(公園ガイドツアー)

【課題・情勢変化】

- 海上公園では、野鳥等の様々な生物の生息により、今後、生物観察等を目的とした利用の増加が想定される
- そのため、多くの人や団体が環境学習や研究活動等を行える場の整備が求められている



東京港野鳥公園ネイチャーセンター

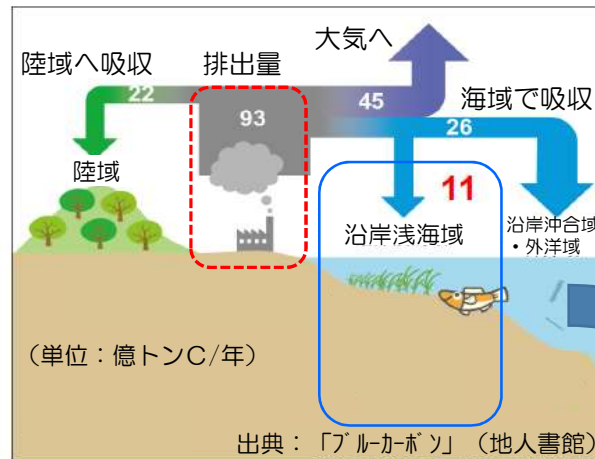


海の森公園ビジターセンター（整備予定） <イメージ>

【課題・情勢変化】

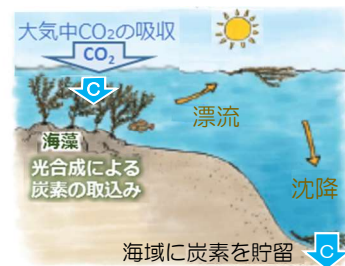
- 地球温暖化対策や「カーボンニュートラルポート」形成の一環として、海洋生態系に吸収・貯留される炭素「ブルーカーボン」が注目されている
- ブルーカーボンの活用による脱炭素化に向けた取り組みが行われている

炭素吸収のイメージ



沿岸浅海域において、一部（11億t-C/年）が吸収

<藻場>



<干潟>



藻場の海藻（例：ワカメ）



干潟（葛西海浜公園）

資料：国土交通省、水産庁HPより作成

【現状】

- 運河部等における水質改善の取組として、汚泥しゅんせつや覆砂を実施している

■汚泥しゅんせつ



ポンプによる汚泥しゅんせつの状況

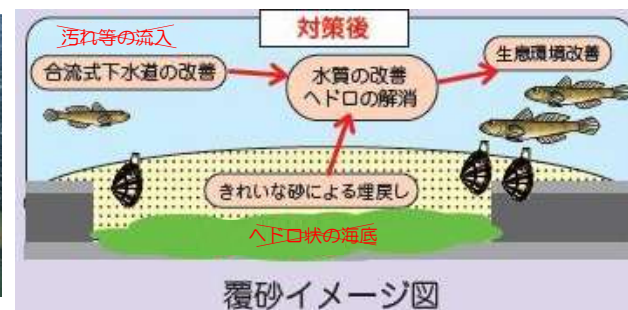
■覆砂



バックホウ台船による覆砂の状況



覆砂に使用する砂



資料：「東京湾大感謝祭2020」HPより

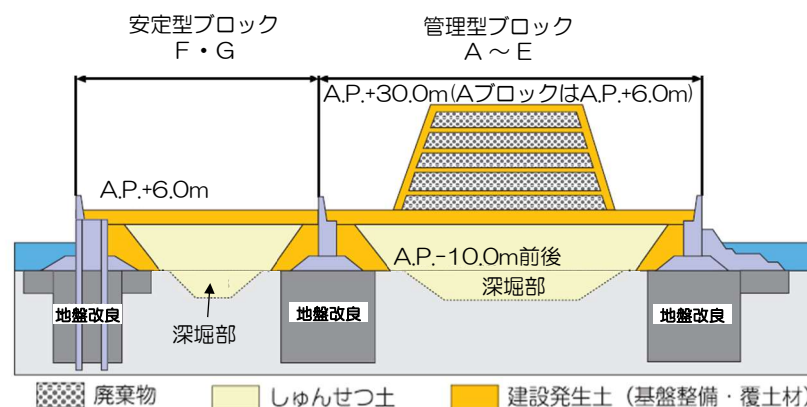
新海面処分場の整備

【現状】

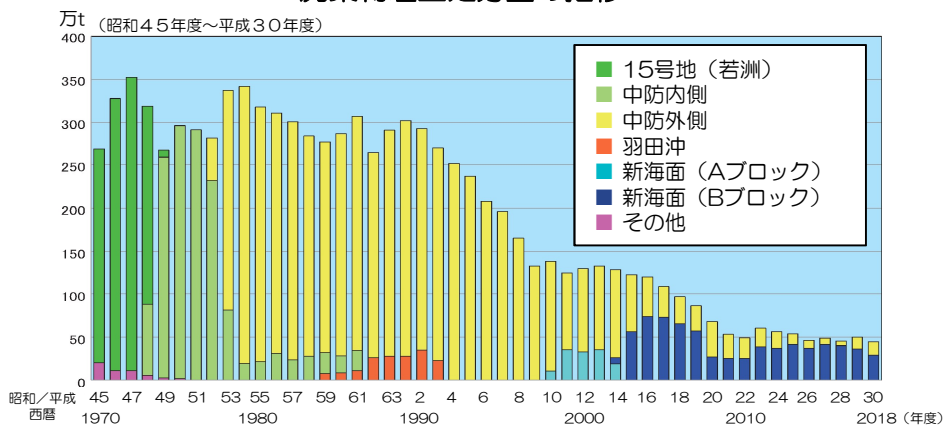
- 都では、循環利用のできない23区内の廃棄物等を適正に処分できるよう新海面処分場を整備している
- 東京港内で確保できる最後の処分場であることから、再資源化等によるごみの減量化や処分場の深掘による施設容量の拡大等により、延命化対策を推進している



新海面処分場の断面図



廃棄物埋立処分量の推移



資料：「東京都廃棄物埋立処分場」(R2.3) (東京都環境局)、「新海面処分場」(H29) (東京都港湾局)より作成

「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

都民に親しまれる臨海部の創造に向けて、水と緑のネットワーク拡充など、良好な空間形成に向けて、どのような取組が必要か

施策の方向性	施策のイメージ
都民に親しまれる水と緑のネットワークの拡充	<ul style="list-style-type: none">• 多様なニーズに対応した公園整備・運営の推進• 水と緑のネットワークの「質」の向上• 海上公園と隣接した土地利用との連続性を意識した公園整備、水辺空間の整備• 都民や企業、団体、地元自治体と連携した、海上公園の魅力向上• 水辺に顔を向けたまちづくり、水辺周辺へのにぎわい創出の推進• 運河のにぎわい・利活用の推進• 東京港の魅力を高める景観づくり、みなとの景観を体感できる視点場づくり• 土木遺構等の維持保全を進め、新旧が調和した港の良好な景観の創出

※資料4-1（観光・水辺のまちづくり）の再掲

「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

豊かな海域環境の実現に向けて、どのような取組が必要か

施策の方向性	施策のイメージ
豊かな海域環境・ 生物生息環境の創出	<ul style="list-style-type: none">• 水生生物や水鳥など、貴重な生き物の生息地である干潟等の保全の推進• 海上公園等を活用した環境学習の推進、里海文化の継承• 水質改善に向けた汚泥しゅんせつ・覆砂の推進• 藻場の創出・干潟の拡充によるブルーカーボンを活用した脱炭素化の推進

循環型社会への貢献や廃棄物処分場など、引き続き都市問題に対応していくためには、
どのような取組が必要か

施策の方向性	施策のイメージ
循環型社会への貢献	<ul style="list-style-type: none">• 新海面処分場の整備、延命化対策の実施• 循環資源である静脈貨物の取扱機能の維持（第4回検討部会資料の再掲）

環境 取りまとめの方向性（素案）

進化し続ける未来創造港湾 東京港 環境

環境

[骨子]

都民に親しまれる
水と緑の
ネットワークの拡充

【まちづくりや公園整備と連携した水と緑のネットワークの拡充】

- 多様なニーズに対応した公園整備・運営の推進
- 水と緑のネットワークの「質」の向上
- 海上公園と隣接した土地利用との連続性を意識した公園整備、水辺空間の整備
- 都民や企業、団体、地元自治体と連携した、海上公園の魅力向上
- 水辺に顔を向けたまちづくり、水辺周辺へのにぎわい創出の推進
- 東京港の魅力を高める景観づくり、みなとの景観を体感できる視点場づくり

豊かな海域環境・
生物生息環境の創出

【海域環境・生物生息環境の創出・保全】

- 水生生物や水鳥など、貴重な生き物の生息地である干潟等の保全の推進
- 海上公園等を活用した環境学習の推進、里海文化の継承
- 水質改善に向けた汚泥しゅんせつ・覆砂の推進
- 藻場の創出・干潟の拡充によるブルーカーボンを活用した脱炭素化の推進

持続可能な
循環型社会への貢献

【持続可能な循環型社会の実現】

- 新海面処分場の整備、延命化対策の実施
- 循環資源である静脈貨物の取扱機能の維持（第4回検討部会資料の再掲）